



入院患者の転倒転落

入院患者の転倒・転落インシデント防止は医療機関にとって非常に重要なテーマです。転倒・転落インシデントは外傷や骨折につながり、患者に大きな影響を及ぼします。しかし、一方で転倒転落防止の為に過剰な身体抑制を行うことは、患者の人権を侵害し、患者の身体能力の低下にも大きく影響するため、バランスのとれた管理を行いながら、患者の評価・介助・見守りを強化する事が求められます。

2014年以降転倒・転落発生率は件数共に増加していますが、転倒・転落における「治療を必要とする転倒」「レベル4以上の重大な転倒」は率・実件数共に減少しています。

転倒・転落増加の原因は2014年10月より4F一般病床を回復期リハ病棟に変更し、「一般55床、回復期44床」となった為に活動性の高い患者が増加した為です。

回復期病棟では入院時転倒転落評価、週1回の「ADLカンファレンス」を行い、入棟患者の身体能力の早期評価・共有の強化に取り組み、活動性の向上に繋がっています。

結果として、転倒転落件数は増加しても、治療を必要とする件数は減少しました。

